

小児用肺炎球菌

- ☆こどもの多くは鼻やのどに肺炎球菌をもっています。体が弱ったりしたときに、肺炎、細菌性髄膜炎（脳を包んでいる膜の炎症）、菌血症（菌が血液に入り高熱が出る）などをひきおこします。
- ☆こどもに重い病気をおこしやすい特定の型の肺炎球菌の感染を防ぐのが、小児の肺炎球菌ワクチンです。
- ☆肺炎球菌ワクチンを接種することで、体のなかに肺炎球菌への抵抗力（免疫）ができます。
- ☆このワクチンは生後2か月になってから接種し始めます。
- ☆小児用肺炎球菌ワクチンは不活化ワクチンです。

■予防接種の回数と間隔

接種を始める月（年）齢によって回数や間隔が異なります。

- ①生後2～7か月未満から開始した場合（標準的な回数） 合計4回。

下記の「予防接種の受け方」をご覧ください。

- ②生後7～12か月未満から開始した場合 合計3回。

1回目…生後7か月以上12か月で開始
2回目…1回目から27日以上の間隔。2歳未満まで。（標準的には1歳未満）
追 加…2回目から60日以上の間隔。かつ、1歳以降5歳未満まで。

- ③1～2歳未満から開始した場合 合計2回。

1回目…1才以上2歳未満で開始
追 加…1回目から60日以上の間隔。5歳未満まで。

- ④2～5歳未満から開始した場合 合計1回。5歳未満まで。

■予防接種の受け方

いつ受けるの？

接種年齢 生後2か月以上5歳未満
（標準的な接種年齢：初回接種の開始が生後2か月以上7か月未満）

どこで？

福島市登録医療機関に予約してください

持っていくものは？

母子健康手帳、小児用肺炎球菌予防接種予診票、
子ども医療費受給資格者証など

回数と間隔は？

初回1回目（生後2か月以上7か月未満）

↓ 1回目から27日以上あける

初回2回目（標準的な接種年齢：1歳未満）

↓ 2回目から27日以上あける

初回3回目（標準的な接種年齢：1歳未満）

↓ 3回目から60日以上あけて、1歳以降

追 加（標準的な接種年齢：
1歳以上1歳3か月未満）

■おこるかもしれない体の変化（副反応）

- 肺炎球菌ワクチンを接種した後、接種個所が赤くなったり、はれたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。
- 乳児はいつもより気嫌がわるかったり、眠そうにしたりすることがあります。
- きわめてまれに、アナフィラキシー（急激なアレルギー反応）やけいれん、血小板減少性紫斑病（かさぶたをつくる働きの血小板が少なくなって、出血しやすくなる）などの重い症状があらわれることがあります。

○予防接種を受けた後、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐに接種医に相談してください。